

## 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

### 【小学校国語】

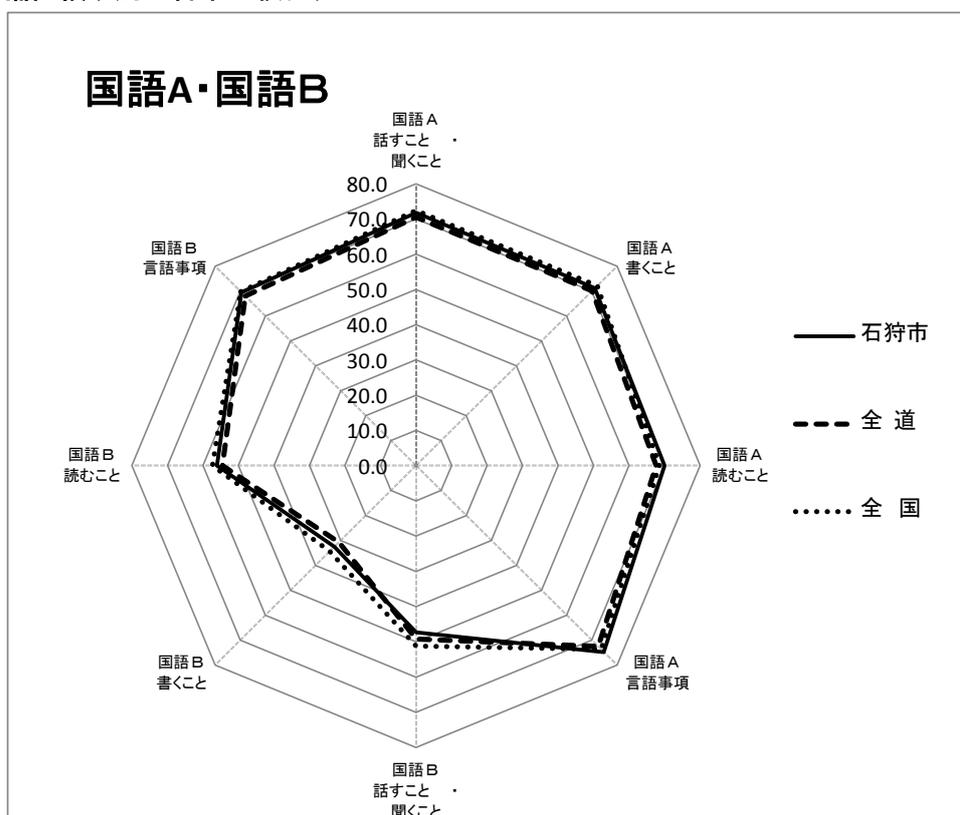
#### □ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	10.9問/15問	72.9%	5.5問/10問	55.6%
全道(公立)	10.3問/15問	71.8%	5.3問/10問	52.9%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				○									☆	○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

#### □ 国語 領域別正答率比較グラフ □



#### □ 国語科の概要 □

- 国語Aの正答率は大きく伸び、全道・全国を上回りました。国語Bについては、全道を上回りましたが、全国を下回りました。
- 故事成語の意味や使い方を理解することに成果が見られ、全道・全国平均正答率を上回りました。
- 無解答率についても改善が見られ、全道・全国に比べ、低い結果となりました。
- 国語B「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は、全道・全国に比べ、低い結果となりました。

## 国語 A (主として「知識」に関する問題)

以下に示す内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・ 故事成語の意味や使い方を理解する。
  - ・ 物語を創作する際、情景描写の効果を捉える。
  - ・ 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える。
  - ・ 話合いの観点に基づいて情報を関係付ける。
- 設問数は、15問です。

### 【各領域別傾向】

- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（上位）で、全国に比べ同様の傾向を示しています。
- ・ 「書くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・ 「読むこと」の領域は、全道や全国と比べて、ほぼ同様（上位）の傾向を示しています。
- ・ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道や全国と比べて、ほぼ同様（上位）の傾向を示しています。

### 【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	7 話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	71.8%	70.5%	72.4%
書くこと	6 2 仮定の表現として、適切なものを捉える	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	86.1%	81.4%	83.1%
読むこと	4 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	75.3%	72.4%	71.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 2 (3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	漢字を書く (かぜをよぼうする)	80.8%	75.0%	77.4%
	2 1 故事成語の意味と使い方を理解する	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)	71.8%	61.6%	55.8%

### 【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	3 情景描写の効果を捉える	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	53.8%	56.2%	58.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 1 (2) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	漢字を読む (街灯がつく)	82.4%	86.5%	87.0%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・ 情景描写を正しく理解し、その効果を捉えることに、課題が見られます。授業において、「行動や表現」「会話（内言）」「風景」等の描写の工夫の効果を理解することができるように指導する必要があります。また、登場人物の心情などについては、直接的に表現されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるよう指導することも必要になります。
- ・ 国語辞典を使った検索の仕方に、課題が見られます。国語辞典の日常の活用を促すとともに、より多くの語彙の習得を図る必要があります。
- ・ 漢字については、繰り返し何回も使う場面を確保することが大切となります。学年で習う漢字は、学年内で定着を図ることを原則に、漢字の反復練習の機会を確保する必要があります。

## 国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる問題で構成されています。

- ・討論会を計画的に進めるために、司会は観点を整理したり、参加者は立場を明確にして質問や意見を述べたりする。
- ・科学に関する本や文章を効果的に読み、分かったことや疑問に思ったことを関係付けながらまとめる。
- ・二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉え、自分の考えを書く。

設問数は、10問です。

### 【各領域別傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道や全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道に比べほぼ同様（上位）で、全国に比べ同様の傾向を示しています。

### 【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	3 三 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	【詩1】と【詩2】を比べて読んだことを書く	49.1%	42.7%	48.1%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	3 一 (1) 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	82.8%	79.4%	80.4%

### 【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1 一 目的に応じて、話合いの観点を整理する	司会発言の内容をまとめて書く	59.3%	62.5%	66.2%
書くこと	2 二 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	付箋の内容を関係付けて、まとめを書く	22.1%	22.5%	26.9%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・「話すこと・聞くこと」については、「目的に応じて、話合いの観点を整理する」ことに課題が見られます。全員が司会の役割を経験する機会を設けるなど、具体的に指導していくことが必要です。
- ・「読むこと」の「詩の解釈における着眼点の違いを捉えること」に課題が見られます。自分の考えと相手の考えを比較しながら、どのような点が共通していたり、相違していたりしているかを考えながら交流することができるように指導する必要があります。

### 教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、昨年度までと同様高い傾向が続いています。全国59.2%、全道59.9%に対して石狩市は60.2%で、それぞれ全国よりも1.0ポイント、全道よりも0.3ポイント高い結果となっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答についても、高い傾向が続いています。全国91.8%、全道91.7%に対して、石狩市は93.9%で、それぞれ全国よりも2.1ポイント、全道よりも2.2%高い結果となっています。
- ・「国語の授業内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より改善され、全国・全道と同様の傾向を示しています。全国80.1%、全道79.3%に対して石狩市は79.5%と、全国よりも0.6ポイント低く、全道比0.2ポイント高い結果となりました。

## 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

### 【小学校算数】

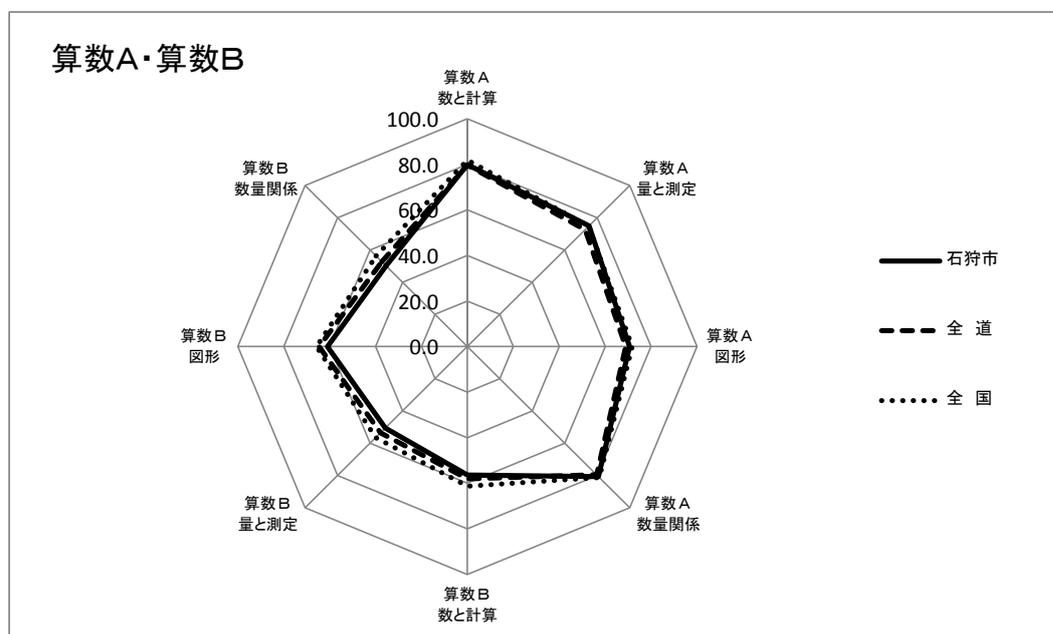
#### □ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	13.3問/17問	78.1%	7.6問/13問	58.2%
全道(公立)	12.9問/17問	75.8%	7.2問/13問	55.2%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				○								☆						

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

#### □ 算数 領域別正答率比較グラフ □



#### □ 算数科の概要 □

- 市内各校の正答率については、全道と全国との差が縮小する傾向が続いています。
- 無解答率については、A問題では全国・全道より少なく、B問題では全道より少なく全国よりも若干多い結果でした。
- 昨年に引き続き、四則計算については改善が見られます。しかし、小数を使う計算問題には誤答が見られることから、繰り返して定着を図る指導が必要です。
- 時刻を求める計算に、課題が見られました。時刻や時間の学習を扱う学年はもとより他の学年においても、活動に関連付けて扱う必要があります。

## 算数 A (主として「知識」に関する問題)

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・示された図から規準量と割合を読み取り、比較量を求める式として正しいものを選ぶ。
  - ・単位量当たりの大きさを求める式を書く。
  - ・作図に用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ。
  - ・四則の混合した式で求められる問題を選ぶ。
- 設問数は17問です。

### 【各領域別傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と同様で、全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べ同様の傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べほぼ同様（下位）傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（上位）で、全国と比べ同様の傾向を示しています。

### 【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	1 (4) 商が小数になる除法の計算をすることができる	$2 \div 5$ を計算する	93.2%	90.4%	91.8%
量と測定	5 (2) 体積の単位 ( $1 \text{ m}^3$ ) と測定について理解している	$1 \text{ m}^3$ の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	84.1%	79.1%	81.1%
図形	7 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	縦5 cm, 横11 cm, 高さ4 cmの直方体の一つの面になる四角形を選ぶ	71.0%	67.7%	69.4%
数量関係	8 四則の混合した式の意味について理解している	答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ	82.2%	79.5%	81.0%

### 【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	2 (2) 割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(規準量) × (割合)になることを理解している	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80 cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	46.2%	49.2%	54.1%
図形	6 作図にも用いられている図形の約束や性質を理解している	コンパスを使った平行四辺形の書き方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	45.6%	47.2%	52.0%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・「数と計算」では、「割合」「比較量」「規準量」の関係式の理解・活用に課題が見られます。理解を深めるため例題を効果的に演習させる等の授業改善や、定着を図るため家庭学習での反復学習が効果的と考えられます。
- ・「図形」では、これまで、定規や分度器等の道具の使い方が課題として、指摘されてきました。今回の調査では、「コンパス」の使い方が課題として浮かび上がりました。日常のノート指導において作図の際にコンパス、定規等の正しい使い方を指導するとともに、図形の性質や約束についての知識・理解をより深める必要があります。

## 算数 B (主として「活用」に関する問題)

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・示された計算の決まりを基に、工夫して計算する方法を記述する。
  - ・最大値に着目して、グラフに表すことができない理由を記述する。
  - ・公倍数に着目して、3つの数量の関係を記述する。
  - ・示された情報を基に筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する。
- 設問数は13問です。

### 【各領域別傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べ低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道とやや低く、全国と比べ低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道・全国共にやや低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べ低い傾向を示しています。

### 【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率	
量と測定	2 (1)	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	6・7月の水の使用量1500m <sup>3</sup> 、プールに入る水の量250m <sup>3</sup> の何倍かを求める式と答えを書く	79.9%	79.9%	82.5%
数と計算	3 (2)	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	54.3%	54.2%	56.7%
数量関係	4 (1)	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	60.5%	59.7%	62.2%

### 【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率	
量と測定	3 (1)	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	31.6%	35.1%	38.6%
図形	5 (1)	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	60.9%	64.6%	65.7%
数量関係	2 (3)	全体と部分の関係を示すために用いられるグラフを選択することができる	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	54.9%	61.8%	61.5%

### 〈指導の改善にあたって〉

- ・示された情報を基に条件に合う時間を求めることに課題があります。情報を図の中に表し整理し、筋道を立てて考えたり、図と式をあわせて考えたりすることで、時間の増減の実感を捉えられる指導が必要です。
- ・目的に応じて表やグラフを選択することに課題があります。授業の中で、表やグラフを関連付けて読み取ったり、判断するなどの活動を十分に行って定着を図る必要があります。

### 教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国66.1%、全道64.0%に対して石狩市は64.3%で、全国よりも1.8ポイント低く、全道よりも0.3ポイント高い結果となっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国92.3%、全道91.1%に対して石狩市は91.4%で、全国よりも0.9ポイント低く、全道よりも0.3ポイント高い結果となっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国79.6%、全道76.8%に対して、石狩市は78.9%で、全国よりも0.7ポイント低く、全道よりも2.1ポイント高い結果となっています。